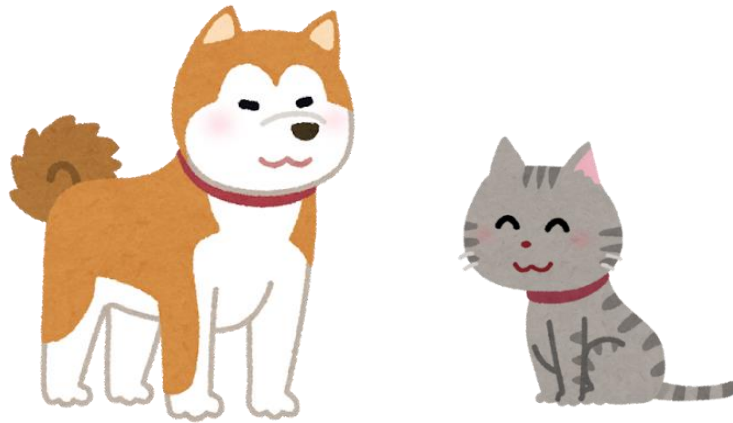


災害時(水害・土砂災害)における

ペットとの同行避難 マニュアル

【 飼い主の皆さまへ 】



令和8年1月
小浜市

目 次

1	はじめに	1
	・ このマニュアルの趣旨	1
	・ ペットとの同行避難についての基本的な考え方 ..	1
	・ このマニュアルにおける用語の解説	3
2	防災フロー	5
3	平常時	6
	・ 住まいや飼育場所の防災対策	6
	・ しつけと健康管理	6
	・ 避難用品・備蓄品の確保	7
	・ 情報収集と避難訓練	9
4	災害が起こりそうな時	10
	・ 人とペットの安全確保と避難の判断	10
	・ ペットとの同行避難	11
5	指定緊急避難場所での流れ	12
6	様式	13
	・ (様式ヒ2-1) ペットとの同行避難者受付簿	13
	・ (様式ヒ5) 避難場所におけるペットの飼い主さまへ ...	14
7	指定緊急避難場所一覧	15
	・ ペットとの同行避難場所(写真一覧)	16

1 はじめに

このマニュアルの趣旨

台風の接近等に伴う大雨や強風などにより、自分の身が危険な状況になるおそれがあるとき、または風水害などが発生し、自宅で待機することが危険であると判断したときは、まずは自分と家族、そして日頃から一緒に暮らすペットの安全を確保するため、指定緊急避難場所（指定避難所も兼ねる）などへ避難しなければなりません。

ペットと一緒に速やかに避難するためには、普段から、災害に備えたしつけや、避難の際に必要なケージなどの避難用品の準備をしておくことが大切です。

また、避難先でのペットの世話や飼育場所の管理は、原則として飼い主の責任で行うことになるため、平常時から、避難場所の運営ルールを確認しておくことも大切です。

飼い主が躊躇なくペットとの同行避難をすることは、自身の安全確保をする上で重要であり、また、放置され野生化したペットによる、住民への危害防止にも繋がるなど、生活環境を保全する観点からも必要な行動です。

このマニュアルでは、ペットを飼育されている方が、慌てず安全にペットと避難ができるよう、平常時から備えるべきことや、災害が起こりそうな時にすべきこと、指定緊急避難場所におけるペットの受入れの流れなどを示しています。

ペットとの同行避難についての基本的な考え方

●ペットは屋外の屋根のあるスペースで飼育します。

小浜市では、一般避難者とペットとの間で生じるトラブルなどを最小化させるため、指定緊急避難場所においては「原則としてペットは屋内へ連れ

込むことを禁止し、屋外の屋根のあるスペースで飼育する」としています。

市内の指定緊急避難場所の内、屋外の屋根のある飼育スペースを確保している避難場所としては「8箇所」が該当しており、施設ごとに定められた「ペット飼育スペース」において、ペットを飼育することができます。(15～16ページ「7 指定緊急避難場所一覧」参照)

●ペット飼育スペースの「運営ルール」を確認しましょう

「ペット飼育スペース」では、原則として、飼い主の責任で自身のペットの世話(給餌、給水、排泄など)をしていただきます。

また、「ペット飼育スペース」の運営については、14ページの「運営ルール」により、飼い主同士で協力して運営していただきます。

『運営ルール』では、入退去を記録することや、交代で清掃を行うこと、その他排泄や事故防災対策に関することなど、「ペット飼育スペース」において守っていただく基本的なルールを定めています。

●同行避難に備えたペットのしつけ

さらに、避難場所においては、ペットの鳴き声や臭いなどに起因するトラブルが生じないように、飼い主には、ペットを飼育していない避難者に配慮した対応が求められるほか、ペットに咬まれるなどの事故を未然に防止するための対策や、ペットの衛生管理など、平常時以上に、適正な飼育管理をするための措置が必要となります。

飼い主は、ペットとの同行避難を想定し、平常時から、ペットのしつけや安全確保などを意識するなど、災害時への備えをしておきましょう。

●身体障害者補助犬の受入れについて

身体障がい者が指定緊急避難場所などへ身体障害者補助犬を同伴して避難された場合は、身体障害者補助犬と一緒に屋内に入ることができます。その際、市では、周囲の理解が得られるよう配慮いたします。

※国、地方公共団体、公共交通事業者、不特定多数の者が利用する施設の管理者等は、災害時

に身体障がい者が避難所などへ補助犬と同伴して避難した場合には、補助犬を拒んではならないことが、身体障害者補助犬法で定められています。また、ここでいう「同伴」とは、補助犬と身体障がい者がともにいることを言い、小浜市は、身体障がい者と補助犬を分けずに屋内へ受け入れる体制をとっています。

このマニュアルは、水害・土砂災害を想定したものであることから、地震発生時においては、身の安全を確保した後、屋外などの安全な場所へ避難すること、津波避難時には「すぐに、徒歩で、高い場所へ、避難」を徹底してください。また、原子力災害時には、行政（国や県、市）からの情報をもとに、「屋内退避」や「避難」などの行動をとり、被ばくを避けるようにしてください。

このマニュアルにおける用語の解説

●ペット

家庭動物等のうち、犬※¹、猫、小型の哺乳類や鳥類など※²のことを言います。ただし、特定動物※³や特定外来生物※⁴に指定された動物、これらに類する動物は含みません。

※1：犬は、体の大きさにかかわらず、すべての犬を対象としています。

※2：犬、猫、小型の哺乳類や鳥類などであっても、避難者等に危害を与える可能性がある動物については、指定緊急避難場所での受入れはできません。

※3：特定動物とは、人間の生命、身体または財産に害を与える恐れのある動物のことを言います。（例：人を殺傷できるクマ、ワニ、へびなど）

※4：特定外来生物とは、外来種（野生生物）のうち、より生態系・人間への危険度が高い生き物のことを言います。（例：生態系や農作物などへ被害を及ぼすアライグマ、ヌートリアなど）

●ペットとの同行避難

飼い主がペットとともに安全な場所まで避難する行為（避難行動）を示す言葉です。

指定緊急避難場所等において飼い主がペットを同室で飼育管理することを意味するものではありません。

●身体障害者補助犬

目や耳、手足に障がいのある方をサポートする盲導犬、介助犬および聴導犬をいい、身体障がい者の自立と社会参加に資するものとして、身体障害者補助犬法に基づき訓練・認定された犬のことを言います。ペットではありません。



2 防災フロー

平常時

住まいや飼育場所の防災対策

しつけと健康管理

避難用品・備蓄品の確保

情報収集と避難訓練

災害が起こりそうな時

人とペットの安全確保と避難の判断

ペットとの同行避難

3 平常時

住まいや飼育場所の防災対策

飼い主がペットの防災を考えることは、ペットだけではなく飼い主自身の災害対策を考えることに繋がります。住まいや飼育場所に危険な箇所がないか確認しておきましょう。

●室内でペットを飼育している場合

ペットが普段いる場所の家具などが固定されているか、また、家具等が転倒しても下敷きにならない安全なレイアウトになっているかなど、一般的な防災対策をしておきましょう。

●屋外でペットを飼育している場合

ブロック塀やガラス窓、倒れやすい建物など、ペットの飼育場所の周辺に破損や倒壊のおそれのあるものがないか、確認しておきましょう。

また、災害発生時にペットが驚いて、首輪や鎖が外れたり切れたりして逃げ出すおそれがないか確認しておきましょう。

しつけと健康管理

日頃からしつけができていると、避難場所での生活においてペット自身のストレス軽減や、他者とのトラブル防止に繋がります。

また、災害発生時には、ペットと離れ離れになってしまう場合もあるため、ペットが保護された際に飼い主の元に戻れるように、所有者明示（鑑札や迷子札、もしくはマイクロチップの装着など）をしておきましょう。

●災害に備えたしつけと健康管理の例

- ・人や他の動物を怖がったりむやみに吠えたりしないように慣らしておく
- ・ケージやキャリーバッグに慣らしておく
- ・決められた場所で排泄ができるようにしておく
- ・ワクチン接種や寄生虫の予防・駆除、トリミングなどを行っておく
- ・不妊去勢措置を実施しておく
- ・首輪と迷子札（飼い主の連絡先や住所が書かれた装飾品）をつけておく
- ・マイクロチップを装着しておく（動物病院で装着可能）

※令和4年6月1日に「動物の愛護及び管理に関する法律」が改正され、ペットショップなどで販売される犬や猫へのマイクロチップの装着が義務化されました。令和4年6月1日以前から飼養している犬や猫への装着は努力義務ですが、ペットが迷子になった時のために装着しましょう。

※マイクロチップに関する詳細は下記 QR コードを読み込み、「犬と猫のマイクロチップ情報登録（環境省）」をご参照ください



避難用品・備蓄品の確保

避難先での避難生活に備え、ペットの飼育に必要な物資を備蓄し、必要な場合には持ち出せるようにしておきましょう。また、避難場所などにペット用の救援物資が届くまでには時間がかかることがあるため、少なくとも5日分（できれば7日分以上）は用意しておきましょう。

●避難用品の例

- ・首輪とリード(逸走対策として小型犬などはリードを付けた上でキャリーバッグに入れる)
- ・キャリーバッグやケージ(扉のついたもの)



- ・ケージに入れて避難することが困難な大型の犬などは、避難先までリードを付けて移動し、避難先へ到着後、飼い主が持参したケージ等に入れてください。



●備蓄品の例

- ・療法食、薬
- ・ペットフード、水
- ・キャリーバッグ、ケージ
- ・予備の首輪、リード(伸びないもの)
- ・ペットシート
- ・排泄物の処理用具
- ・食器、タオル、ブラシ
- ・お気に入りのおもちゃなど匂いのついた用品
- ・飼い主の連絡先と、ペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預け先などの情報
- ・ワクチン接種状況、既往症、投薬中の薬情報、かかりつけの動物病院などの情報



情報収集と避難訓練

いざ避難が必要となったときに安全かつ迅速に避難するためには事前の情報収集が重要です。

また、実際に家族単位でペットを連れて避難訓練を行い、所要時間や危険な場所、複数のルートなどをチェックしておきましょう。

●情報収集と避難訓練内容の例

- ・防災行政無線、小浜市防災メール、小浜市公式LINE、小浜市公式ホームページ、テレビ、ラジオ、気象庁ホームページ等からの情報収集
- ・ハザードマップや防災マップ等での危険個所の把握
- ・ペットと一緒に逃げられる安全な場所の把握
- ・人が集まる場所でのペットの反応や行動の把握
- ・動物病院、ペット宿泊施設、親戚や友人など、複数の一時預け先の把握



4 災害が起こりそうな時

人とペットの安全確保と避難の判断

台風の接近等に伴う大雨や強風などにより、自分の身が危険な状況になるおそれがあるときは、避難するための準備をしましょう。

飼い主は、防災行政無線、小浜市防災メール、小浜市公式LINE、小浜市公式ホームページ、テレビ、ラジオ、気象庁ホームページ等から正確な情報を集め、避難の判断をしましょう。

避難する際には、まず飼い主が、自分自身の安全を確保した上でペットの安全を確保しましょう。

避難時には、ペットもパニックになり、いつもと違う行動をとることがあるため、逸走やケガなどに注意しましょう

警戒レベル一覧表

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1
<警戒レベル4までに必ず避難！>			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示（注）
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 （気象庁）
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 （気象庁）

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである
（注）避難指示は、令和3年の災対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令する

▲内閣府「避難情報に関するガイドライン」より引用

ペットとの同行避難

自宅等からの避難を判断した場合は、飼い主が自己の責任でペットと同行避難することになります。必要な避難用品を持って、避難先（公的な避難場所や飼い主が事前に把握した安全な場所など）に向かいましょう。

指定緊急避難場所では、ペット専用のスペースが屋外等と限られていること、また、他の避難者ならびにペットの安全への配慮から、ペットは必ずケージやキャリーバッグに入れて避難しましょう。ただし、ケージに入れて避難することが困難な大型の犬などは、避難先までリードを付けて移動し、避難先へ到着後、飼い主が持参したケージ等で飼育管理するようにしましょう。



5 指定緊急避難場所での流れ

- 原則、ペットを屋内へ連れ込むことを禁止し、屋外の屋根のあるスペースでの飼育となります。
- ペットの飼育管理は飼い主の責任で行います。
- 避難者等に危害を与える動物は、受入れできません。
- 身体障害者補助犬については、身体障がい者と一緒に屋内へ受け入れます。
- 避難場所の運営には飼い主同士の助け合いと協力が必要です。

《ペット受付時の流れ》

1 避難場所担当職員へ飼育場所の確認

避難場所ごとに飼育場所が異なったり、被害状況や避難状況により飼育場所が変更となる場合があるため、避難場所担当職員に飼育場所の確認をしてください。

2 受付

(1) 下記用紙に必要事項を記入し、避難場所担当職員に渡してください。

・(様式ヒ2-1) ペットとの同行避難者受付簿

(2) 避難場所担当職員から「受付No.カード」と「結束バンド」を受け取り、ケージ等にくくり付けてください。

3 運営ルールの確認

「様式ヒ5: 避難場所におけるペットの飼い主さまへ」を確認し、運営ルールを遵守してください。

4 避難場所での運営開始

避難場所は、動物が苦手な人や動物アレルギーを持っている人など様々な人が避難される場所です。ペットの鳴き声、臭い、毛の飛散などに配慮し、飼い主同士で協力してペット避難場所の運営をしましょう。

6 様式

(様式ヒ2-1) ペットとの同行避難者受付簿

(表面)

様式ヒ2-1 (表面)

受付No. _____

ペットとの同行避難者受付簿 (世帯ごとに記入)

※避難された方は、【1.避難者情報の「本枠内」】のみ記入してください。記入後は、この紙を避難場所担当職員にお渡しください。
 ※個人情報保護の観点から、**世帯ごとに1枚**ご記入ください (5名以上いる場合は2枚目をご使用ください)。

1. 避難者情報 (「本枠内」をご記入ください)

No.	ふりがな 氏名	年齢	性別	現住所	避難所への 到着日時		避難者の 到着日時報告		避難者の 退所日時		避難者の 退所日時報告		備 考
				連絡先	到着日	到着時間	報告日	報告時間	退所日	退所時間	報告日	報告時間	
1			男・女		／	：	／	：	／	：	／	：	
				TEL：									
2			男・女		／	：	／	：	／	：	／	：	
				TEL：									
3			男・女		／	：	／	：	／	：	／	：	
				TEL：									
4			男・女		／	：	／	：	／	：	／	：	
				TEL：									
5			男・女		／	：	／	：	／	：	／	：	
				TEL：									

※避難場所担当職員記入欄 (本部への報告および避難者退所日時について)

2. 避難所名 (避難場所担当職員にて該当する避難所に「○」をしてください)

コミュニティ センター	小浜コミュニティセンター	雲浜コミュニティセンター	遠敷コミュニティセンター	口名田コミュニティセンター
小学校	小浜小学校	内外海小学校	口名田小学校	
その他	文化会館			

(裏面も必ず記載してください)

(裏面)

様式ヒ2-1 (裏面)

	ペット名	ペット 種類	性別 (選択)	色 大きさ	避難所内 飼い主の 居場所	注意事項	マイクロチップの 有無と番号
例	つつじ	犬	オス・メス 避妊去勢	黒色 小型	体育館の奥 ステージ右側	お腹が空いてる時に触ると 咬みます	有 (15桁の番号)
1			オス・メス 避妊去勢				有 ・ 無 No. _____
2			オス・メス 避妊去勢				有 ・ 無 No. _____
3			オス・メス 避妊去勢				有 ・ 無 No. _____
4			オス・メス 避妊去勢				有 ・ 無 No. _____

『記入後の流れ』

1. 本用紙は避難場所担当職員に渡してください。
2. 「受付Noカード」と「結束バンド」を受け取り、ケージ等にくくり付けてください。
3. 避難場所から退所する際は、必ず退所日時を避難場所担当職員に伝えてください。

(様式ヒ5) 避難場所におけるペットの飼い主さまへ

様式ヒ5

避難場所におけるペットの飼い主さまへ ～ペット飼育スペースにおける『運営ルール』～

1 飼い主同士で協力しましょう

飼い主同士が協力してペット飼育スペースの清掃や管理を行いましょう。

2 ペットの世話について

原則、飼い主の責任で世話をします。

ペットも体調を崩しがちです。飼い主、または飼い主が依頼した人以外は給餌・給水を行わないようにしましょう。

3 入退去について

必ず「(様式ヒ2-1) ペットとの同行避難者受付簿」に入退去を記入し、避難場所担当職員が、ペット飼育スペースにいるペットの頭数等を把握できるようにしましょう。

4 ペット飼育スペースの清掃について

飼い主同士で交代しながら掃除し、清潔を保つことが苦情に繋がらないポイントです。

5 排泄について

排泄は必ず決められた場所で行い、臭いなどの苦情が出ないように後始末をしましょう。

6 鳴き声、臭い、毛の飛散などに対する配慮について

避難場所におけるペットに起因した避難者からの苦情やトラブルを削減するため、鳴き声、臭い、毛の飛散などに関して配慮しましょう。

7 事故防止対策について

不用意に犬に触って咬まれるなどの事故を未然に防止するため、ペットを人の避難スペースや居住スペースに入れないようにしましょう。

8 健康管理について

ペットも大きなストレスを感じています。普段以上に注意深く様子を観察し、異常を感じたら、かかりつけや最寄りの動物病院に相談しましょう。

以 上

7 指定緊急避難場所一覧

- ペットとの同行避難を実施する際は、ペットの飼育管理に必要な避難用品を持って、下記一覧の「○」が入った避難場所へ避難しましょう。
- 屋外飼育スペースには限りがありますので、避難訓練等を通して事前に避難場所の確認をしておきましょう。

No	地区名	施設名称	所在地	屋外飼育スペース (屋根あり)	
				有無	場所
1	小浜	小浜小学校	駅前町13-29	○	渡り廊下口の右手
2		小浜コミュニティセンター	小浜日吉91-3	○	正面玄関右手
3	雲浜	小浜中学校	雲浜二丁目1-1		
4		小浜第二中学校	後瀬町8-10		
5		福井県立若狭高等学校海洋キャンパス	堀屋敷2-5-2		
6		雲浜コミュニティセンター	城内二丁目5-16	○	正面玄関右手
7		健康管理センター	南川町4-31		
8		市民体育館	後瀬町9-38		
9		文化会館(※)	大手町7-32	○	正面階段と踊り場
10		働く婦人の家	大手町4-1		
11	西津	西津小学校	北塩屋18-19		
12		西津コミュニティセンター	北塩屋22-2		
13		県立大学小浜キャンパス	学園町1-1		
14	内外海	内外海小学校	阿納尻45-9	○	体育館入口横
15		内外海コミュニティセンター	阿納尻43-10-1		
16		旧田島小学校	田島61-4		
17	国富	旧国富小学校	次吉27-15		
18		国富コミュニティセンター (洪水の場合は使えません)	栗田11-3-2		
19	宮川	旧宮川小学校	竹長14-10-3		
20		宮川コミュニティセンター	加茂2-17-2		
21	松永	旧松永小学校	上野30-1		
22		松永コミュニティセンター	上野28-7		
23	遠敷	小浜美郷小学校	金屋39-8		
24		旧遠敷小学校	遠敷72-17		
25		遠敷コミュニティセンター	遠敷71-8	○	2階ベランダ
26		遠敷児童センター	遠敷一丁目202		
27	今富	今富小学校	和久里15-2-5		
28		今富コミュニティセンター	和久里18-18		
29	口名田	口名田小学校	中井43-15	○	体育館入口
30		口名田コミュニティセンター	中井41-9	○	2階ベランダ
31	中名田	中名田小学校	下田14-13-1		
32		中名田コミュニティセンター	下田52-19		
33	加斗	加斗小学校	飯盛59-32		
34		加斗コミュニティセンター	加斗30-35		

(※) 文化会館は、令和8年4月1日～令和10年3月31日の期間は、耐震改修工事のため避難場所として利用できません。

ペットとの同行避難場所(写真一覧)

【 選定基準 】 下記の要件を満たす場所

- ・最低限、自然現象(雨風、日当り、雪など)に耐えられる場所であること
- ・堅牢な屋根等で囲われた空間であること

※屋根のある駐輪場や渡り廊下は、避難場所から除外しています。

※災害時の施設の状況によっては、下記のスペースを確保できない場合もあります。

【 避難場所(8施設) 】



災害時(水害・土砂災害)における
ペットとの同行避難マニュアル
令和8年1月6日 発行

〒917-8585 小浜市大手町6-3
小浜市総務部 防災防犯課
TEL: 0770-64-6006
FAX: 0770-53-1522
Mail: anzen@city.obama.lg.jp